

事業名	アオリイカ産卵床効果調査
予算区分	水産研究費（県単）
事業実施期間	R6
担当者	（海洋生産技術担当）石川貴志、小倉季人
共同研究機関等	

<目的>

近年、アオリイカの漁獲量が減少している。漁業者は、産卵床（イカ柴）の造成や産卵期の親イカ、小型イカのリリースを釣り人に呼びかけるなど、資源管理に努めている。

<方法>

産卵礁調査

6月13日、11月29日に日和佐地先の内が磯、恵比須洞周辺の産卵礁を調査した。

<結果>

6月13日の調査で、恵比須洞周辺の産卵礁7個のうち、2個にアオリイカの卵が確認できた（写真1、2）。内が磯の産卵床は13個調査したが、卵は確認できなかった。

11月29日の調査では、産卵床自体が確認できなくなっていた。漁業者が設置する、アオリイカ産卵床は波浪・時化により、産卵期1シーズンしか持たないことがわかった。



写真1. 産卵床に産み付けられたアオリイカ卵

<今後の課題>

特になし。

<次年度の計画>

産卵再生期の調査を実施する。

<結果の発表・活用状況等>

特になし。